

# 第4次 東海村地域福祉計画

地域で支え合い笑顔でいきいき暮らせるまちを創る



令和3年度～令和7年度  
東海村

# 目次

ごあいさつ(東海村長)

はじめに(東海村地域福祉計画推進会議アドバイザー)

序論 さあ、みんなで地域福祉活動に参加しよう！ .....	1
1. 地域福祉ってなんだろう？ .....	2
2. なぜ「地域福祉」が必要なんだろう？ .....	4
3. 地域に生まれたセーフティネットワーク .....	12
4. 協働による地域福祉の推進に向けて .....	16
5. さあ、みんなで地域福祉活動に参加しよう！ .....	19
第1部 地域福祉計画の策定 .....	21
第1章 地域福祉計画とは .....	22
1. 計画策定の背景と目的 .....	22
2. これまでの計画の概要と本計画との関連 .....	23
3. 計画の策定手法 .....	24
4. 計画の期間 .....	24
5. 計画の位置づけ .....	25
第2章 東海村の地域福祉の現状 .....	29
1. 統計からみた本村の現状 .....	29
2. 地域福祉に関する住民の意識(ニーズ調査より) .....	34
3. 地域福祉を取り巻く国の動向 .....	43
第3章 計画の実施状況と見直し .....	49
第2部 基本構想 .....	55
第1章 計画の基本理念 .....	56
第2章 基本目標 .....	57
第3章 施策の体系 .....	61
第4章 第4次計画の進行管理及び評価方法 .....	62

第3部 施策の推進.....	65
基本目標1 地域福祉を担うひとづくりを推進します .....	66
基本目標2 地域で支え合う体制(しくみ)づくりを推進します.....	68
基本目標3 安全・安心に暮らせる地域づくりを推進します .....	70
基本目標4 すべての人々の権利擁護(アドボカシー) を推進します .....	72
成年後見制度利用促進基本計画 .....	74
資料編.....	81
資料1. 東海村で展開されている様々な地域福祉活動.....	82
資料2. 統計データ .....	90
2-1. 人口動態に関する統計.....	90
2-2. 子どもに関する統計.....	97
2-3. 高齢者に関する統計.....	100
2-4. 障がい者に関する統計 .....	102
2-5. 地域活動に関する統計 .....	103
2-6. 地域で困っている人に関する統計 .....	113
2-7. 社会資源に関する統計 .....	117
付属資料 .....	118
東海村地域福祉計画推進会議設置要綱 .....	118
東海村地域福祉計画推進会議委員名簿 .....	120
おわりに.....	121
東海村地域福祉計画推進会議委員からのメッセージ.....	121

# ごあいさつ



東海村長 山田 修

わが国では、少子高齢化の進展による人口減少や経済規模の縮小が見込まれ、また近年の自然災害の頻発化など、私たちを取り巻く状況は厳しさを増しています。一昨年からは、新型コロナウイルス感染症がパンデミックとなり、感染拡大の防止や社会経済活動の維持など、新たな課題にも直面しています。

本村では、これまで第1次―第3次東海村地域福祉計画に基づき、様々な事業を積極的に展開し、地域の支え合いの基盤を整備してまいりました。また、(社福)東海村社会福祉協議会との連携により、制度の狭間にある支援を必要としている方への個別支援や、地域住民による地域福祉活動への支援の充実を図るとともに、各機関・団体相互の連携を推進し、地域の様々な福祉課題の解決に取り組んでまいりました。

しかし、近年では、家族や隣近所など身近なところで支えられていた困りごとを、誰にも相談できないまま抱え込み、周囲から孤立する人や、複雑な課題を抱える人など、これまで以上に生きづらさや困難を抱える人が増えています。

誰もが住み慣れた地域で安心して暮らしていくためには、高齢者、障がい者、子どもなど世代を超えたすべての人々が役割をもって、ともに支え合いながら地域を創っていくことが重要であり、現在、国においては、「支える側」と「支えられる側」という関係を超え、地域の課題に対し「我が事」としてとらえ、「丸ごと」取り組むことで、地域をともに創っていく「地域共生社会」の実現が提唱されています。

「第4次東海村地域福祉計画」では、基本理念である「地域で支え合い笑顔でいきいき暮らせるまち」を実現するため、「ひとづくり」「体制づくり」「安全・安心」「権利擁護」をキーワードに、この「地域共生社会」の実現に向けた重層的な支援体制づくりを、地域福祉の主役である「村民の皆様」とともに取り組んでまいりますので、御理解と御協力をお願い申し上げます。

結びに、この計画策定にあたりアドバイザーとしてご指導くださいました淑徳大学の稲垣美加子先生、御尽力をいただきました「地域福祉計画推進会議」委員の皆様、ニーズ調査などを通じて多くの御意見・御提案をいただきました村民の皆様にご心より感謝を申し上げます。

令和3年3月

# はじめに



東海村地域福祉計画推進会議アドバイザー

淑徳大学 教授 稲垣 美加子

今回の計画策定では、コロナ禍という想像もしていなかった日々の中、オンラインを通じて委員の皆さんと議論させていただきました。限られた環境の中でも、皆さんが丁寧な議論をされているのをお聴ききしながら、直接話合いに参加できないことを寂しく思いつつも、高校生から年齢を重ねた皆さんまで、幅広い世代が垣根なく議論される様子を頼もしく拝見しておりました。

現在、社会福祉全体が「地域共生社会」を基盤とした自助・共助による“ソーシャルインクルージョン：誰一人見逃すことのない包括的支援”を目指そうとしています。コロナ禍はそこに大きく、そして強靱な楔を打ち込んだといえるでしょう。私が日頃暮らす地域ではシャッターの降りた店舗が増え、夜は20時を過ぎれば人気も無くなります。人と人とのコミュニケーションも疎遠になりがちです。“共に生きる”ためには創意工夫が必要です。

私たちの社会は古くから感染症との闘いを重ねてきました。社会福祉はそこに生じる貧困や生活問題に対応してきた側面もあります。我が国は1959年の伊勢湾台風による被害の教訓から上下水道の整備が進み、それは現在の清潔つまりは、世界でも有数の安全な生活基盤の獲得に繋がっています。

地域福祉に画期的なカンフル剤はありません。丁寧にしていねいに、そこに在住・在学・在勤さらには来訪する方達も含め、日々声を掛けることから“繋がり”やがて、その“繋がり”が編み上がって“絆”になっていきます。かつて、災害から安全な生活基盤を獲得したように、この困難の中から新しい“絆”の編み方を見いだしていきたいものです。

まだまだ、皆で知恵を出し合い、支え合い困難に立ち向かわなければいけない状況が続きます。期せずして筆をとっている今日は3月10日です。東日本大震災からちょうど10年です。まだまだ余震が続いています。自然や環境はいつも私たちを優しく包んでくれるとは限りません。自然の力に畏怖の念を忘れず謙虚に、しかし、互いを信じて果敢に日々の課題に挑戦していきたいものです。

先に述べたように、この計画策定には高校生の委員が参加して下さっています。彼／彼女らが暮らす未来の東海村に持続可能な良い資源をどのように受け渡していくか、いましばらく皆さんと共に知恵を出し合う機会をいただければと思っています。

どうぞ、皆さんの想いを東海村らしい「住民主体」の“絆”に編み上げていってください。

最期に、計画にご尽力くださった前委員長の黒澤 達さんのご冥福をお祈り申し上げます。長年暖かいご指導をいただきました。心より感謝申し上げます。

令和3年3月